

# 保育所保育の質を高めるための園内研修について考える

中 島 寿 子

A Study of On-the-Job Training in Nursery School  
for Enhancing Early Childhood Care and Education

NAKASHIMA Hisako

(Received September 30, 2016)

## I 問題と目的

### I-1 保育の質を高めるための園内研修

保育所では「保育所全体の保育の質の向上を図るため、職員一人一人が、保育実践や研修などを通じて保育の専門性などを高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協働性を高めていくこと」が求められている（保育所保育指針，2008）。また、「同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見いだすために、職場内での研修を行うことが大切」であり、外部の研究者等を加えることで「職場内では気が付きにくい新たな観点からの保育の検討や見直しが可能とな」とも指摘されている（保育所保育指針解説書，2008）。

筆者も継続的に参加した保育所の園内研修をもとに、保育の質を高める園内研修となるためには、以下の点が重要となることを明らかにした(中島, 2009)。1. 所長のリーダーシップ、2. 園内研修の体制作り、3. 研修の内容と方法(①保育者一人ひとりの自己評価につながる②日々の保育実践と循環する③共通理解が深まる)、4. 子どもや保育について話しやすい関係作り、5. みんなで考えていこうとする保育者集団であること(協働性)、6. 外部からの参加者の存在。

その後、筆者は他の保育所の園内研修にも参加する機会を得、その園の実態や課題を把握しながら研修に取り組んでいった。本研究では、その園内研修を取り上げ、園の実態や課題に合わせて保育所保育の質を高めるための園内研修にどのように取り組むとよいのか考察したい。

### I-2 研究の目的

ある保育所における一年間の園内研修をもとに、園の実態や課題に合わせて保育所保育の質を高めるための園内研修にどのように取り組むとよいのか考察する。

## II 研究の方法

本研究で取り上げるのは、山口県内のY保育園の園内研修である（以下Y園と表記する）。Y園は共同保育所として創立され、後に社会福祉法人となった。定員は90名である。園長はY園創立当時からの保育者であり、主任もY園での長年の保育経験があるが、現在の保育者の中には、Y園での保育経験が少なかったり保育経験自体が少ない保育者も多かった。園内研修は保育者の希望も聞きながら行なっているが、最近では年間を通したテーマは設けていなかった。

Y園の園内研修講師を長年つとめ、現在は学習会講師をつとめている筆者の元同僚の大学教

員（以下、A先生と表記する）を通して依頼があり、筆者も園内研修に参加するようになった。  
 本研究では筆者が参加を始めた年度のY園の園内研修について、園長・主任との話し合いの記録、保育者の記録・レポート、筆者が作成した園内研修レジュメ、園内研修当日の記録等をもとにまとめる。そして、園の実態や課題に合わせて保育所保育の質を高めるための園内研修にどのように取り組むとよいか考察する。以下、Ⅲにおいては筆者をNと表記する。

### Ⅲ 結果と考察

#### Ⅲ-1-1 Y園における課題の明確化と園内研修の方向性についての検討

Y園の実態や課題を把握し、園内研修の進め方について考えるために、A先生とNでY園を訪問し、園長・主任と話し合いをした（表1参照）。そして、園長・主任は「発達がゆるやかな子ども」「困り感のある子ども」「はたらきかけにくい保護者」がいる中で、職員同士で共有する記録が不十分な場合があることや、「これまでの保育のありよう」「この園での保育のありよう」をY園での保育経験が少なかったり保育経験自体が少ない保育者にどのように伝えていくのが課題だととらえていることを確認した。

そこで、記録についての園内研修を通して、子どもの育ちや自らの保育を振り返り、保育の中で大切にしたいことについても一緒に考え、共通理解を深めることを意図した。取り組みやすさを感じられるように、年間テーマは「書けたらうれしい実践記録」とし、始めは保育者が日々書いている連絡帳、週案・週の記録を取り上げることにした。

表1 第1回話し合いの概要 3月11日（水）14:00～16:00

保育記録についての課題	園長：発達がゆるやかな子どもやはたらきかけにくい保護者がいるため、みんなで共有する記録が必要だが、具体的な記録が残っていないことが多い。困り感のある子どもについての振り返りの記録が不十分なこともあった。 記録自体はすごい厚みのものを書いている。よい意味で効率的にしたい。 主任：記録を読んでいて、エピソードの一つでもあればと思ったりする。
現在書いている計画・記録	N：現在どのようなものを書いているのか？ 主任：「年間指導計画」「月案」「週案」「個人記録（1年のまとめ）」がある。 N：日々の個人記録はどのようにしているのか？ 主任：週案「保育メモ」「振り返り」欄を活用する、自分でノートを作る等をしてまとめている。
Y園が大切にしてきたことをどのように伝えるか	園長：正規と臨採で担任をしている。平等だから意見は同じように言ってほしいと伝え、日誌も書いてもらっているが、新しい保育者に、これまでの保育のありよう、この園での保育のありようを伝えると、受け入れられなかったり、身を固まらせたりして、ギクシャクしてしまうことがある。そうすると人間関係が子どもにも響いてしまう。 A先生：Y園の保育方針は大賛成だが、「こうすべき」と言っても伝わらない。「なぜか」がわかる方が納得する。 園長・主任：子どもの見方が記録に表れる。0歳児に「わがまま」「言うことを聞かない」と書いていることがあった。
ミーティング	N：保育者間のミーティングはどのように行なっているか？ 園長：毎日午睡時に連絡帳を書きながら行なっている。
園内研修のテーマと実施時期	N：新しい保育者がわからないのは当然で、具体的な場面をもとに聞かないとわからない。 A先生：記録をもとに考えることが必要。これまでのように、一年間の節目ごとに園内研修を行なってはどうか。 園長：それなら今までと変わらないので、可能。園内研修は午睡時の13:30～15:00に行なっている。 N：最初は「記録に大事なことが書かれていますよ」と保育者たちに話すようにしたい。

表2 第2・3回話し合いの概要 4月24日(金) 13:40~17:00 28日(火) 14:00~17:30

第2回 週案・週の記録	園長：記録に子どものかわいさや保育の困難さが書いてある人、メモやその日の流れだけ書いてある人と様々。特に複数担任である3歳未満児クラスでは、共有することが大切になる。日常の保育と配慮が必要な子ども、その子どもの特質への気づきを書いておいてほしい。「大人主導にしない」と言いながら、生活の流れで動いてないかも気になる。
研修の進め方	N：3歳未満児、以上児と分けて実施するなら、保育所保育指針で基本的な考え方をおさえた上で各回1クラスを取り上げるとどうか。
第3回 伝え合いが できる記録	園長・主任：「書けたらうれしい記録」は伝え合うことのできる記録でもありたい。3歳未満児クラスは複数担任。みんなで同じ思いでやっているということが伝わるとうれしいし、つながっていける。保育もしやすくなる。 N：そうなると、ローテーションや役割分担をする上で、見通しがもてる。
研修の進め方	N：連絡帳は担任に「ピックアップした内容とその理由」を語ってもらいたい。 週案・週の記録は、各回でNが取り上げたクラスの良い点を具体的に確認しながら、「記録を書く中で考えていること・考えたいこと」につなげたい。

その後、さらにNが訪問し、話し合いをした(表2参照)。週案・週の記録を見てみると、具体的でなかったり、保育者としての願いが書かれていない記録もあった。また、園長・主任からは、「大人主導にしない」と言いながら、保育者の都合による生活の流れを優先させていないか、複数担任である3歳未満児クラスでは保育者間での共通理解がなされているのか、そのために記録が機能しているのかも気になるという話があった。

そこで、連絡帳の内容は全クラスの担任保育者に予め選んでもらい、週案・週の記録は参考となるクラスをNが取り上げながら、記録を書くことの意味について考えることにした<sup>注1)</sup>。

### Ⅲ-1-2 第1回園内研修

日時：3歳以上児クラス：5月7日(木) 13:30~15:00

3歳未満児クラス：5月12日(火) 13:30~15:00

テーマ：「書けたらうれしい実践記録」とは?~日々の記録をもとに考えてみよう~

始めに、子どもの育ちや自らの保育を振り返るため、保育の中での様々な課題を同僚と話し合うために記録が欠かせないことを『保育所保育指針解説書』(2008)をもとに確認した。

連絡帳の記録は、担任保育者に「選んだ内容とその理由」を語ってもらいながら進めた。子どもの記録をもとに保護者とやりとりをするという連絡帳の特徴もあり、子どもや保護者への支援についての話し合いが中心となり、自らの保育について振り返る発言は少なかった。週案・週の記録については、取り上げたクラスの週案・週の記録(記録1参照)<sup>注2)</sup>と具体的に関連させながら、日々の記録を書く上で大切な点を確認をした。例えば、以下の点である。

- ・子どもの名前や子どもの言葉を具体的にあげて書いている。
- ・具体的な子どもの姿を取り上げ、子どもの言動の意味を考えている。
- ・子どものうれしい変化、よいところ、気になる姿を具体的に書いている。
- ・週のねらいもふまえて書き、その週の振り返りをもとに翌週のねらいを考えている。

また、「記録を書く中で考えていること・考えたいこと」についても確認した(図1参照)。どのクラスの週案・週の記録にもあまり書かれてなかった環境構成についても、保育を計画したり振り返る上で考えることの大切さを確認し、環境図も活用して記録することを提案した。

園長からは、「気になる子ども」のことが記録に書かれている必要があり、互いに発信して共有して見守り育てていきたいという話があった。

記録1 第1回園内研修で取り上げた4歳児クラス週案・週の記録（一部）

<表面>（一部） 4月 6日～11日		園長印	○	主任印	○	担任印	○
		週のねらい ○ 友だちとの中を深めていく。 ○ 当番活動をはりきって行う。		行事 9日（木）お祝い 給食 家庭との連携 日中の様々や家での様子を知らせ合うようにする。			
環境構成・予想される活動・援助と配慮		実施活動・自己評価					
友だちとの中を深めていく。 ・好きな遊びを友だちと存分に楽しむ。 ・集団遊びを通して友だちと関わる事を楽しむ。 ・新入園児を気にかけて、やさしくしようとする。（中略）		◎好きな遊びに没頭できるような環境を整える。（コーナー分けや時間の持ち方など）（中略）		6日（月）（前略）裸足で水たまりに入り、心地良さを感じたり、水をすくい集めて遊びに使ったりと新入園のAちゃんも一緒になって皆で楽しめた。（後略）			
当番活動をはりきって行う。 ・エプロンをつけ、給食やおやつ配膳を行う。（中略） ・自分の役目をやりきる事で自信をつけていく。		◎アレルギーで除去食の子もいるので間違いがないよう十分に気をつける。（中略）		7日（火）（前略）○公園まで散歩した（中略）桜のじゅうだんに感激したり（中略）公園へ、遊具でたっぷり遊んだ。（後略）			
生活の流れが分かり、自分でしようとする。 ・新しい生活の流れにも慣れ自主的に動こうとする（中略） ・気持ち切り替えられず援助を必要とする子もいる。		◎生活の中でどの部分がまだ身に付いていないかを見ていき、個別にも伝えていく。（後略）		8日（水）（前略）川上手ですれ違った方2人に子ども達が挨拶をしなかったので足をとめ、挨拶の大切さを話した。（後略）			
<裏面>（一部）							
週の評価・反省・特記 進級し一週間以上が経ち、緊張も和らぎのびのびと自分が出せるようになってきた反面、少し落ち着きのない場面も増えつつある。静と動のバランスを考え、散歩や水たまりでの遊びなど心を解放できる時間も組み入れた。子どもとも保護者ともより信頼関係を築いていけるよう日々関わっていきたい。							
保育メモ 7日（火）B 頑張って負担がかかった後は充電時間が必要。 「力がついてきたらきてね?」「うん」と返事があると有言実行できる。		6日（月） ◎C D（自己都合） E（目）F（ぜん息）					
8日（水）G「先生（ぼく）あまりたたかなくなった」「先生もそう思うよ!」とたっぷり褒め、抱きしめた。		8日（水）					
9日（木）グループ名決め H ジャンケンで負けたのに勝ったと嘘をつく。勝ったIの「宇宙人」は恐いと嫌がり、結局3人で話し合い「くるま」グループに。 J サクラグループが嫌なのは「サクラはちってしまうから」		◎C（自己都合）E（目） ◎F（気管支炎）G（目薬）					

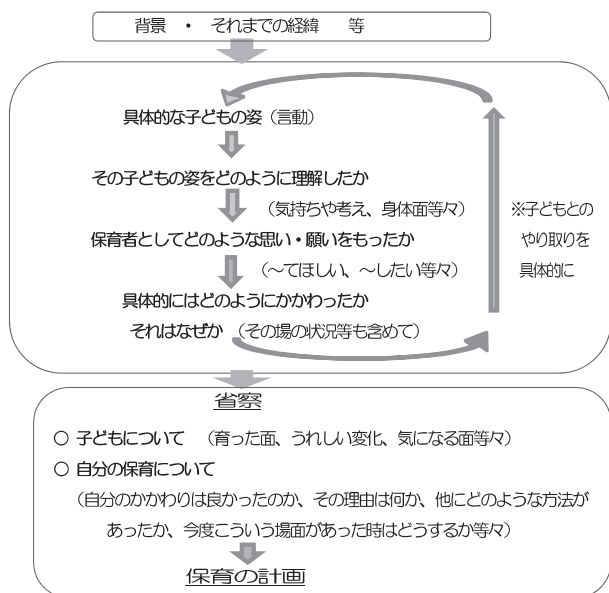


図1 「記録を書く中で考えていること・考えたいこと」（第1回園内研修レジュメより）

### Ⅲ-2 第2回園内研修

日時：5月22日（金）13:30～15:00 テーマ：連絡帳の記録をつなぐことで見えてくるもの  
第2回園内研修でも連絡帳を取り上げ、継続的に書いた記録から子どもの育ちや自らの保育について振り返ることの大切さを実感できるとよいのではないかと考え、以下の提案をした。

- ・各クラスで1名の子どもの連絡帳の記録を選び、4・5月分の記録を並べてみる。
- ・それを読み返しての感想をまとめる。補足メモを書いてもよい。

当日は、作成したレポートをもとに報告してもらった。例えば、0歳児クラスでは4月当初によく泣いていたK男を取り上げ、K男の育ち、保護者とのやりとり、自分たちの保育について振り返り、気づいたこと、保育の中で大切にしていることをまとめていた(レポート1参照)。

Nからは、どの記録からも選んだ保育者の視点(大事にしたいこと、課題ととらえたこと)が読み取れること、その視点があることの大切さを確認した。また、どの子どもについてもこのように振り返ることが大事だが、「手のかからない」「いい子」の場合はどうだろうかと問いかけた。園長からは、Nが話した「どの子どもにも大事」ということが「一人一人を大切にすることだ」という話があり、事実の記録は大事だが、その場面だけで決めつけないことも大事だという話もあった。

### Ⅲ-3-1 A先生による学習会

Y園では「気になる子ども」への支援についてA先生が助言をされており、園内研修と関連させていくことも意図し、NもA先生の学習会に参加した。

#### レポート1 「連絡帳をつなげて見えてくるもの」：0歳児クラス担任保育者のまとめ(一部)

<p>4/7 <b>園での様子・連絡</b> (前略) Z先生が今お気に入りのようで、後追いもしています。離乳食、私が食べさせていても、目は私やお皿ではなく、しっかりZ先生に進みもいまちなので、Z先生にバトンタッチ!! したら、食べる食べる。(中略) お気に入りの大人がいることでKちゃんも安心できる...うれしいですね</p>	<p>4/20 <b>園での様子・連絡</b> (前略) 今日は朝お別れの時に涙が出ましたが、すぐに泣き止み、外の景色をみたりおもちゃで遊んだり(中略) 離乳食では、今日はじめて食材に手がのびました。(中略) 長芋をつまんでぐちゃぐちゃにしてみたりと、以前は全然食材に手が出なかったKちゃんの進歩です。</p>	<p>5/12 <b>園での様子・連絡</b> 今日はすごい!! あんなに手づかみを嫌がっていたKちゃんが、朝のおやつ中、ベビーせんべいを自分で食べている!! そして、給食中も(中略) おかずを手づかみでびっくり&amp;うれしい日となりました。おへやですごしましたが、(中略) 一番活発に動き回りニコニコでした。(後略)</p>	<p>〇〇組(0才児) <b>Kくんのうれしい変化と成長</b> (前略) 連絡帳を見返していくとKくんのうれしい成長がみつかりました。並べてみると、コメントに対してお家の方の反応もあり、一緒に成長を喜びあうことが出来ているのがわかります。(中略) 小さな変化や成長に気が付き、その事をまずは保育者同士で共有し、家庭へしっかり返していく。そんなことを今、クラスでは大事にしているところです。 赤ちゃんの泣きに、つい焦りを感じていた4月のことを思うと、私たちが少しずつ子どもたちの距離も近づいてきているのかもかもしれません。まだまだこれから!! 家庭としっかり連携をとり、自分たちの保育を日々反省しながら頑張っていこうと思います。</p>
<p>4/8 <b>家庭での様子、連絡</b> お気に入りの先生ができたんですか! 昨日もばあばが帰ろうとすると大泣きで、困らせていました(笑) 今日からMちゃんと一緒に登園するので、Y園での長い1日がスタート...大丈夫とは思いますが、どんな感じで過ごすのか 楽しみです。今日は1才の誕生日です この言葉うれしい</p>	<p>4/21 <b>家庭での様子、連絡</b> 徐々に慣れていってくれば、と思います。 最近、手につかもうとし始めましたね!! まだまだそこから口に行こうとはしませんが、また楽しみです。昨日も帰るとニコニコ笑顔を見せてくれ、とってもいやされました。</p>	<p>5/13 <b>家庭での様子、連絡</b> 昨日のY園での食事を 見てみたかったです!! やっとやる気がでたんでしょうか(笑) 家でも頑張ってもらっています。家でLちゃんやMちゃんと一緒に遊ぼうと頑張っています。昨日は3人仲良く遊んで、Kちゃんは大笑いしていました。</p>	

日時：8月8日（土）13:30～15:00

テーマ：気になる子どもの保育実践と支援—保育観察からみる支援のあり方—

子どもの行動理解の方法、子どもの行動の発現とその背景について話をされた後、「ABC分析」<sup>注3)</sup>の考え方も紹介され、他クラスの保育者による場面記録をもとに3歳児N男の行動やその行動が起こる背景について一緒に検討し、支援のあり方について考えていった。

### Ⅲ-3-2 観察と場面記録の作成

学習会で学んだことをいかし、場面記録をもとにN男を含めた3歳児クラスの保育について一緒に考える機会をもち、そのための記録の大切さも実感できるとよいのではないかと考えた。保育者が長時間クラスを離れることはできないため、複数名の保育者がリレー方式で観察する日を設け、保育者が観察した場面について理解できるように、Nも一緒に観察をした。

### Ⅲ-3-3 第3回園内研修

日時：9月12日（土）13:30～15:00

テーマ：具体的な場面の記録をもとにN君の園生活、〇〇組の園生活について考える  
～「N君が伝えたいことは何か」を手がかりにして～

登園時を観察した保育者から順に、場面記録（記録2参照）をもとにN男を中心とした3歳児クラスの園生活について観察したこと、そこから感じること考えたこと、質問したいこと等を話し、担任保育者2名がそれまでの経緯やその場の判断も含めて答えて、さらに話し合いを進めていった。その中で、担任保育者から「午睡時は自分から体を休めようと布団に入ってほしい。しかし、N君を含めて保育者にそばに来てほしい子どもが多く、クラス全体も落ち着かないため、眠りに入りにくい状況にある」という悩みが語られた。そこで、Nが昨年度の3歳児クラスはどうだったかを尋ね、支援が必要な子どもへの対応を含めた午睡場面の保育について、昨年度3歳児クラス担任であった保育者からも体験を話してもらった。

最後に、園長からは「他の保育者の話を聞いての話し合い」「昨年度のこともふまえての話し合い」ができてよかったという話があった。Nからは、「自分だったらどうするだろうか」と担任保育者の立場になって全員で話し合い、一緒に考えることの大切さについて確認した。

記録2 場面記録（一部）

時間	場面と環境	子どもの行動	保育士の対応
11:10	足洗い場で水をくみ始める	(前略) ・水がいっぱい入ったバケツを運ぼうとするが、重くて運べない。 ・O子の遊んでいるすべり台の下まで一緒に運ぶ。	T「これ半分こして運ぶっかあ」と水を半分こして、手をつないで一緒に運ぶ。
	すべり台の下へ	・水の入ったバケツの中に泥を入れ続けている。O子と2人で仲良く話しながら、各々の遊びを続けている。 ・Tの声が聞こえたのか	T「みんなー、そろそろお片づけして足洗って入ろうね」と全体に声かけ
11:20	片づけが始まる	N男「いまだねー」 O子「みんないるんだよねー」 N男「みんながかえっても、ずっといるんだよねー」 2人で気にせず遊び続ける (中略) N男・O子「いまだー！」	T「お片づけしてシャワーしたいんだけどなあ」 T「どうしたら帰ってくる？」「Nくん“4”（20分）になったよー？」「これからみんな、おともだちシャワーするからお手伝いできないよ。バケツ重たいよー？」
11:25		N男「いよいよー」	

### Ⅲ-4-1 第4回園内研修に向けての準備

今後の園内研修について考えるため、これまでの園内研修の経験が実際の記録にいかされているかを見てみると、ねらいをふまえた振り返りが書かれるようになった記録がある一方で、具体的でなかったり、子どもの興味・関心、経験のとらえ方に偏りが感じられる記録もあった。そこで、各クラスで一人の子どもを取り上げ、4月からの様々な記録を読み返してレポートにまとめる経験をしてはどうかと考えた。

準備のために、各クラスで取り上げたい子どもの記録を抜粋して提出してもらおうと、連絡帳からの抜粋のみで週案・週の記録からの抜粋はなかったり、自らの保育や振り返りについては書かれていない記録もあった。そこで、日々の様々な記録をもとに子どもの育ちや自分たちの保育についての振り返りを具体的に書いている1歳児クラスに報告してもらおうことになった。

担任保育者3名から1名の報告担当者が決まり、クラスリーダーの保育者も加わって園長・主任、Nで話し合いをした。その後、報告担当保育者が期ごとに整理してきた記録をもとに、Nも一緒に考えながらレポートを作成した（レポート2参照）。

#### レポート2「記録をもとに子どもの育ちと保育について振り返る」(一部)

<p><b>P子を取り上げた理由</b> クラス内で一番低い月齢でありながら、動きが激しく、とにかく部屋を走り回り、友だちにぶつかっても気にしていない。あまり周囲の様子も見えていないという姿が多く見られ、大変気になった。兄は集団生活の中で支援が必要な子で(中略) P子自身の生活リズムや心と身体の安定にどう関わっているのか。以上のことをふまえて、新年度からこれまでの成長を追っていくことにした。</p>	
<p>★I期 4・5月</p>	
<p>4/1 連絡帳 母(前略) 兄の生活リズムに合わせる事が多く、今後どのようにこの点を改善、折り合いをつけていこうかと悩んでいます。(後略)</p>	<p>&lt;当初の保護者とのやりとり等について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前略) 登降園時の出会える時は挨拶をし、こまめに話をするようにした。</li> </ul> <p>&lt;新 OO組の様子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進級したばかりで(中略) クラス全体が落ちつかない。部屋からテラスへの柵のない広々とした空間がより一層、子どもたちを開放的にしてしまう(後略)</li> </ul> <p>&lt;4/4 クラス会議で話し合ったこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前略) 絵本箱に入るのは、落ちつける場所を求めているのではないか? いくつかダンボール箱を用意してみる。(後略)</li> </ul> <p>&lt;&lt;この時期のP子について&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前略) よそ見をしながら進むので、友だちとぶつかったり(中略) 転んだりすることはしばしば。(中略) 周囲の子が少しずつ落ちついて過ごせるようになっていくにつれ、このようなP子の行動が目立ち始めてきた。</li> </ul>
<p>&lt;4月当初の環境構成&gt; (室内環境図 略)</p> <p>(中略)</p>	<p>&lt;気になること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウロウロするのは、周りの子よりも幼くて遊びが追いついていなくて、どうしたらいいか困ってる? 落ちついて遊べるにはどうしたらいいか? (後略)</li> </ul>
<p>週の評価・反省・特記 (前略)</p> <p>子どもの要求に合わせてダンボール箱を置いたり(中略) 声をかけ合いながら動くようにし、落ちついて過ごす時間が増えたように思う。安全を守ることを第一としながら、禁止ばかりでなく、要求に応じて生活の空間を少しずつ広げていると考えている。</p>	<p>&lt;気づいたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(前略) 行動が先行してしまう反面、友だちのしていることをよく見ていて真似もしている。</li> </ul>
<p>4/15 連絡帳 担任(前略)</p> <p>トコトコと動き回って、いろんなものを見つけて持って歩いています。給食で食べ始めた途端にコックリコックリ居眠り…。さっきまで、あんなに動いていたのに…。</p>	<p>&lt;P子に対して心がけたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声をかけながら一対一の関わりを大切にしていく。</li> <li>・ゆったりと関わり、自分で好きな遊びを見つけれられるよう寄り添っていく。</li> </ul>
<p>4/23 連絡帳 担任 砂場に大きい山をつくと、お友だちの真似をして登っていくようにします。なかなか登れず、おしりを支えてつべんに登らせてあげようとしているのに(中略) とびこんでいます。大胆です</p>	<p>&lt;&lt;この時期のP子について&gt;&gt;</p> <p>[睡眠] 食事の途中で切り上げて、布団へ連れて行くこともあれば、顔や衣服をきれいにしてもらっているうちに目が覚めて寝はぐれることもある。(後略)</p> <p>[食事] 汁物が好きですごい勢いで食べ始める(中略) おかずも手づかみが多く、よそ見をしながら(中略) あまりかまわずに飲みこんでいく(後略)</p>
<p>★II期 6・7・8月</p>	
<p>6/3 連絡帳 母 昨夜も寝つけず(中略) 布団に入ってから2時間弱かかり(後略)</p>	
<p>6/3 連絡帳 担任 保育園の昼寝も(中略) ごきげんでパジャマに着替えて布団に行く時は(中略) 眠れません。そんな時は体をさすったりするマッサージをしてあげます。少しずつ体も心もリラックスできて徐々に目が閉じていきます。</p>	

<p>6/13 連絡帳 担任 Pちゃんも好きなもの、あまり好きでないものがしっかりあって(中略)まだまだ波もありますね、「おいしいねえ」と楽しくお話ししながら、このまま食事がうれしいと思えるようにしていけたらいいですね。</p>	<p>【おっぱい】 食事、睡眠と、なかなか安定せず…。家庭ではまだおっぱいを飲んでいるとのこと。</p>
<p>6/24 連絡帳 父 (前略) 今朝はオっぱい飲んでなく、そろそろ卒乳かと思います。</p>	<p>&lt;担任の思い&gt;</p>
<p>6/24 連絡帳 担任 オっぱいなくても、そろそろ大丈夫になっていますよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(前略) おっぱいをやめれば、しっかり食べられて夜もぐっすり眠れるようになると思うのだけど…。</li> </ul>
<p>6/22~27 週の記録「保育メモ」 (前略) 食事は食べるが、気持ちが少々散漫で落ちつきがない印象を受けてしまう。母は断(卒) 乳したいと思っているが、思いきれずすることができないという感じ。(中略) (卒乳するとP子自身がどんなふうになるだろうと、少し楽しみなどころもある)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒乳をすすめたいが、母の思いなども考えるとなかなか切りだせないでいる。</li> </ul> <p>&lt;保育環境の見直しと保育者の連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちがコーナーごとで遊びやすいように広かった量を2つに分け(中略)じっくりと遊びを楽しめる環境づくりを心がけた。</li> <li>・P子が興味をもったもので一対一の関わりを大切にしていける。(中略)</li> </ul>
<p>7/4 部屋の模様替え (室内環境図 略)</p>	<p>&lt;この時期のP子について&gt;</p>
<p>7/6~11 週の評価・反省・特記 (前略) 徐々に子どもも大人も慣れてきて、ゆったりと絵本を見る子、ブロックを楽しむ子とうまくコーナー分けをして遊ぶことができていた。以前のような窓枠へ登る子が少なくなり驚いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やめたのー!?!」と担任はビックリ!!突然の卒乳報告。</li> </ul> <p>&lt;友だちが気になり始める&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉はないが、初めてP子が友だちの姿に気づいて、自分からかけよっていく場面(一方的でなく、友だちのことを気にかけている)</li> </ul>
<p>7/15 連絡帳 父 食欲はあまりありません。夏バテもあるかもしれませんが、卒乳(遂にお乳出なくなりました)のせいかもしれません。</p>	<p>&lt;友だちが気になり始める&gt;</p>
<p>7/21 連絡帳 担任 (前略) 大きな泣き声に気づいたPちゃんは、Q君の所へかけ寄り、顔をのぞきこんだり周りの先生を探すのにキョロキョロしたり…。表情やしぐさが「どうしたん?なんで泣きよるん?大丈夫〜?」と話しかけているように見えました。</p>	

★Ⅲ期 9・10・11月

<p>8/31~9/5 週の記録「保育メモ」(前略) めちゃくちゃに人にぶつかっても少なくなった。まてまて遊びでは(中略) 声かけにもしっかりと反応し、テーブルのそばに隠れ、やりとりを楽しんでいる。(中略) 自然と脱力することもでき、自分で入眠できることもある。今後も丁寧にゆったりと関わりながら様子を見ていきたい。(中略)</p>	<p>&lt;この時期のP子について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日によるが、以前に比べると周りのことがずいぶんと見えるようになっている。</li> <li>・簡単なごっこあそびを友だちや保育者と一緒に楽しんでいる。</li> </ul>
<p>9/24 連絡帳 担任 朝、出会うとすぐに足にくっついてきて「おはよ!!」と言ってくれました。にこにこのかわいも笑顔、Pちゃん。(中略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さあ、もうねようね」と声をかけ、電気を消したり、保育者が布団のそばに座ると自分の布団に戻り、横になる。(中略)</li> <li>・少しずつ言葉が出てくる。</li> </ul>
<p>10/21 連絡帳 父 今朝は服を自分で着るP子でした。</p>	<p>&lt;意志表示、発語がはっきりとしてくる&gt;</p>
<p>10/21 連絡帳 担任 偉いですね!!園でも自分でできることが増えています(後略)(中略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でやりたい ・自分で伝えたい</li> </ul>
<p>10/30 連絡帳 担任 みんなが絵具をしているのに気づき、「やる〜」とPちゃん。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から興味のあることを見つけられるようになり、またそれを言葉にして表現している。(後略)</li> </ul>
<p>11/12 連絡帳 担任 泣きながら保育士の所へ来て「〇くんがーPのーとったあゝ」などなど、身振り手振り指さしをしながら、一生懸命思いを伝えていますよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを言葉やしぐさで伝えようとする。</li> </ul>

記録をもとにP子の育ちと保育をふり返って

(前略) 一番月齢の低いP子は、幼くて、まだ色々なことが分かっていない(できない)と思っていた。が、実はあの春、ドタバタと動き回っている最中にたくさんものを見てたくさんのかを聞いて、学んでいたのかもしれない。

卒乳をしてしばらく、少しずつ食事、睡眠、排泄と様々なことが自立していき、今では信じられないくらいお姉さんになっている。

春、3名の担任でクラス会議をした。あの時は、大騒ぎだったクラスをどういう風にまとめていくか、どう関わっていくかということたくさん話し合った。そこで一番大事にしていこうと決めたことは、子どもたちの思いをきちんと受け止めて返していくということ。そうしていくには、やはり保育者同士の仕事の連携、心の連携が大切なのではないか。しっかりと話し合ったり、意見交換することが大切だと思う。

記録を整理してみて

何気なく書いている日々の連絡帳から、子どもの少しずつ成長していく姿が見られた。ちょっとした子どもの変化や成長を日誌の保育メモに書いておくと、「ああ、そんなことあったな…」と振り返ることができた。その時の思いなども書き入れると、その時の様子を思いだすことができる。自分の思いを文字にするのは難しいけど、やはり記録は大切なんだと痛感した。



### Ⅲ-4-2 第4回園内研修

日時：12月5日（土）13:30～15:00

テーマ：日々の記録を通して子どもの育ちと自分たちの保育について振り返る

連絡帳、週案・週の記録（日の記録や環境図、「週の評価・反省・特記」「保育メモ」等）（記録1、注2参照）等の記録からまとめたレポートをもとに、報告担当の保育者がP子を取り上げた理由、4月当初にとらえたP子の姿、保護者とのやりとり、気になったこと、気づいたこと、P子を含む1歳児クラスの保育について話し合ったこと、大切にしようとして共通理解したこと、P子の変化、自分たちの保育について振り返り考えたこと等について具体的に語っていった。その後、他の保育者からの質問にも答えていった。

報告を終えた感想をNが求めると、報告担当の保育者は「自分のための記録だが、子どものための記録、3人で保育をしていくための記録でもある」「同じ思いで書いているので、まとめる時に記録を拾いやすかった」と語り、リーダーの保育者は「何気なく書いている連絡帳も、日を追うにつれ成長が見られる」「複数担任だから、なおのこと話をして同じ思いで子どもたちにかかわることが大事」、Y園での保育経験が一年目の保育者は「日頃から園での子どもの出来事を話す中で、成長のポイント、大事にしたいことも話している」と語った。

園長からは、子ども一人一人を大切に保育の中身がよくわかったのではないかと、それは記録があって初めて伝わりと話があった。

### Ⅲ-4-3 冊子『記録をもとに子どもの育ちと保育について振り返る』の作成

他のクラスも記録を抜粋していたため、このようなレポートを全クラスで作成することを園長が提案し、年度末には冊子『記録をもとに子どもの育ちと保育について振り返る』が完成した。各レポートは1歳児クラスのレポートにならった様式でまとめられ、園内研修の経験がいかにされていた。また、レポートの最後には、「○組は自分一人で日誌を書くわけではないので、記録した保育者の気持ちも見えてくる」「細かく記録をつけることで、子どもがどこで困っていて、どういった手助けが必要かが見えてくると思うし、それは振り返って時系列で見えてくるものかもしれない」「記録を見ることで、この1年の○君の育ちを思い出すことができた。できないことや関わり方の難しさを感じる記録が多かったものの、○君の『できた』記録を見返すことで、次はこうしてみようと思うきっかけになっていた」等、担任保育者間で共通理解をする上での記録の意味、継続的に記録をすることの意味、記録を読み返すことで生まれる保育の見通しについて等が記されていた。

### Ⅲ-5-1 第5回園内研修に向けての準備

A先生にも参加してもらい、次の園内研修の内容について園長・主任と話し合った。その中で、まだ全クラスの保育については取り上げていないこと、子どもの興味・関心、経験のとらえ方に偏りが感じられる記録もあることから、各クラスから検討したいことを出し合い、記録をもとに話し合いながら、自らの保育について振り返る研修をしてみようということになった。

園内研修に向けての準備として、各クラスの保育者1名に以下の記録をまとめてもらった。

- ・取り上げる記録：各クラス担任が予め「日誌から選んでおいだ記録」
- ・記録を選ぶ視点：「2月のある日の一場面の記録」かつ「みんなで検討したい記録」
- ・連絡帳の記録は取り上げない。

目的も予め以下のように伝えた。「日々の記録をみんなで検討することを通して①子どもについて、自分の保育について省察する。②保育にいかす記録の書き方について考える。」

### Ⅲ-5-2 第5回園内研修

日時：3月5日（土）13:30～15:00

テーマ：保育記録の書き方について具体的に考える

～日々の記録から保育を振り返ることを通して～

全クラスの保育について記録をもとに話し合うため、3歳以上児クラスと3歳未満児クラスに分かれ、話し合いの内容を全員で共有できるように記録者も決めて行なった。

3歳以上児クラスは、担任保育者・主任・Nが参加し、以下の記録をもとに話し合いをした。

- ・3歳児クラス：ねらい「友達や保育士と簡単なルールのある遊びを楽しむ」をふまえて初めて提案した「いろいろバスケット」の記録
- ・4歳児クラス：支援が必要な子どもと他の子どもとの関係性を支え、関わりが生まれるための援助について考えさせられた記録
- ・5歳児クラス：子どもが自分たちで遊びを進めたりレーごっこの記録

例えば、3歳児クラス（レポート3参照）では、具体的状況について確認しながら、子どもたちにふさわしい遊びだったか、子どもたちはどのようなことに興味・関心をもっていたか、一人一人の子どもの言動はどのような気持ちや考えの表れか、集団の中に入ることが難しい子どもを含め、このような遊びを楽しむことはどのような経験になるか等について話し合った。

3歳未満児クラスは、担任保育者・園長・A先生が参加し、以下の記録をもとに話し合いをした。

- ・0歳児クラス：少しずつ変わり始めたW児の記録
- ・1歳児クラス：食事に向かうことがスムーズにいかないX児の記録
- ・2歳児クラス：劇ごっこの中で気持ちの表現に戸惑うY君の記録

この日の研修の内容については記録者がレポートにまとめ、他の参加者も以下の点についてレポートをまとめた。1. 第5回園内研修を終えて、2. 一年間の園内研修を振り返って、3. 今後の自分の課題①保育について②記録について

### Ⅲ-5-3 レポート「第5回園内研修を終えて」（表3参照）

レポート「第5回園内研修を終えて」を読むと、特にY園での保育経験が少なかったり保育経験自体が少ない保育者（4年未満）は、記録をまとめたり、他の保育者の話を聞いたりアド

レポート3「保育記録の書き方について具体的に考える～日々の記録から振り返ることを通して～」  
：3歳児クラス担任保育者によるレポート

#### ①「なぜこの記録を書いたのか」「なぜみんなで検討したいと思ったのか」

- 月、週のねらいを「友達や保育士と簡単なルールのある遊びを楽しむ」としていたので、初めてフルーツバスケットにチャレンジしてみた。
- より分かりやすく、親しみやすいよう赤青黄の色にしたりと考えたが、まだ工夫するポイントはなかったか？
- 個人的に気になったこと、次のことに活かそうなことを記録にした。

#### ②日誌からの記録 2月12日

フルーツバスケットの色バージョンをする。首から赤、青、黄のメダルをかけて、自分の色を確認すると、色はよく分かっていた。最初の何度かは、ゆっくり言ったり、確認するように動いていたが、繰り返すことで楽しさが分かってきて、スムーズに動くことができてきたと思う。「呼ばれた色の人だけ動く」というルールはきちんと理解していた。ルールは分かっているけど、動けない子どもや、わざと座らずリーダーをやりたがる子どももいたが、それが今の子どもの姿なのだと思う。何度も繰り返し遊んでいけたらと思う。

#### 「保育メモ」から

- ・R・S・T・U - 色を言うリーダーがやりたくて、座らない。S、Tは他の人が座らないと「はやく！」と文句を言う。
- ・V - 数回やると、「もうやりたくない」とやらない。
- ・T - 最初自分の好きな色ではなかったので、立とうとしない。やっているうちに楽しそうに見えたのか、参加する。

バイスをもらうことで、客観的に考えることができたり子どもや保育の見方が広がったことに意味を見出していた(表3 下線部)。また、「自信につながった」「励まされた」という記述もあった(表3 下線部)。Y園での保育経験が長い保育者のレポートには、「つながり」という言葉があり(表3 下線部)、子どもの育ちや保育の連続性、どの年齢の子どもの保育でも共通して大切にしたいことという意味で用いられていると考えられた。また、今までの自らの保育をもう一度振り返り、考え直す機会となった保育者もいた(表3 下線部)。

### Ⅲ-5-4 「一年間の園内研修を振り返って」「今後の自分の課題」(表4・5参照)

レポート「一年間の園内研修を振り返って」を読むと、特にY園での保育経験が少なかったり保育経験自体が少ない保育者は、記録の意味についての気づきや考え方の変化について記述していた(表4 下線部)。また、レポート「今後の自分の課題」の「①保育について」には「自由度のある保育」「気になる子の対応」等、第5回園内研修における話し合いの中で話題となった点が挙げられ、「同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見いだす」(保育所保育指針解説書, 2008) ことができた様子が窺えた(表5 下線部)。「②記録について」は、書き方自体を身につけていきたいという記述が多かった(表5 下線部)。園内研修を始める前に園長・主任が課題として語っていた点(表1・2参照)を自分の課題とし、園長の言う「これまでの保育のありよう」「この園のありよう」についても理解し始めた様子が窺えた。

Y園での保育経験が長い保育者は、「今後の課題」の「①保育について」は「保育士主体ではなく」「今、目の前の子どもたちに一番大切なこと(育てたいところ)は何なのかをしっかりと考えた関わり(職員同士の共通認識や連携も含めて)」等に触れており(表5 下線部)、「②記録について」は記録を書く上でさらに考えた点についての記述があった(表5 下線部)。

表3 「第5回園内研修を振り返って」：保育者によるレポートからの抜粋

記録提出者	○文章にし客観的に見ることで、日頃の保育の見直しができ、いろいろなことを知ることができた。(2) ○自分が書いた記録を中心に話が進んだので、緊張はあったが、いろいろなアドバイスや考えを聞くことができたので、これからの保育、記録に活かしていきたい。肯定的に意見が出てきて、自分の保育をほめてもらう事もあったので、 <u>自信につながった。</u> (3) ○自分以外の人の意見やアドバイスをもらい、違った角度、視点で保育内容を見つめ直すことができた。 <u>客観的に考えられ、貴重な時間だった。励まされた部分もあり、少し嬉しかったし救われた</u> (4)
	●“本当にその子が求めているものって何だろう?”というA先生の投げかけは、少しドキッとした。その子にとって一番良いであろうと思った対応をしてきたつもりだが、果してそうだったのか、自分の保育を振り返って、色んな角度から考えて見る事も大事なんだと思った。(0) ●各クラスから出された記録の着眼点や保育の悩みから、その年齢の発達が見え、 <u>つながっている</u> ことを感じた。また自分自身の記録についての意見を多くもらうことができ、とてもよかった。 <u>2才になった子どもたちにとって、また個にとっての“待つこと”の意味、“ともだちと一緒にする”ことの意味、利点を考えなおすよい機会になった。</u> (1)
他の参加者	○“0歳だったらこうあるべき”というイメージを気付かないうちに持ってしまっていて、その型にはめようとしている部分があったことを反省した。(0) ○他のクラスの話聞いたことで、自分のクラスの悩みと通じるところがあり、この子もこんなことを訴えているのかなと、 <u>見方を変えるきっかけ</u> になった。(2)
	●対応にいきづまっていたことをしっかり話し合えたことで、方向性や関わり方がはっきりとした。0歳～2歳、3歳へと発達や成長がしっかりと <u>つながっていく</u> ような保育が大切だと改めて思った。(1) ●各クラスで取り上げた場面は違っているものの、最終的に育てたいところだったり、 <u>つながるもの</u> がある。(3)

注) ○:Y園での保育経験が少ない保育者や保育経験自体が少ない保育者 ●:Y園での保育経験が長い保育者

( )内:担任している子どもの年齢

表4 「一年間の園内研修を振り返って」：保育者によるレポートからの抜粋

<p>記録をもとにした話し合いから</p>	<p>○日々の中で、ある一場面や特定の子に注目して振り返るということはなかなかできないので、よい機会だった。<u>アドバイスをもらったり、他の人の意見を聞いたりして参考になることも多かった。</u>(0)</p> <p>●<u>自分たちの保育を客観的に見てもらえる場があり、本当によかった(無意識に言っていることややっていることもあった)。</u>(3) 第3回</p> <p>●<u>他クラスの抱えている大変さ、悩みを知り、それに対して先生達がどのように関わっているのかがよく分かった。私達がその子に関わる時の参考にもなるし、“こうしたみたら、こうだったよ”と伝える事のできるいいきっかけになった。</u>(0) 第5回</p>
<p>記録を書くことについて</p>	<p>○<u>連絡帳や保育日誌、保育メモは子どもたちの育ちや課題、自分たちの保育の軌跡が分かる宝の山だと思っ</u>た。日々丁寧に書き、書きっぱなしにする事なく活用していきたい。(4) 第5回</p> <p>○<u>この一年で、保育の記録に対する考え方が変わった。</u>ただあったことを書いていくのではなく、だからどう考えたか、どう感じたかを書けるようになってきた。(3) 第3回・第5回</p> <p>○<u>なんのために記録を書くのかを考える機会になった。</u>子どもの行動をどんなふうにとらえていたのか、言葉だけにとらわれずに、子どもの思いや、子どもの発達の段階や課題はどこなのか、を考えていきたい。(1)</p> <p>●<u>記録を何のためにとるのか、なぜとる必要があるのか…結局書くことで子どもがよく見えてくるし、</u>保育に悩みを感じていても、周りからのアドバイスをもらえて、自分なりの課題ができる。(0)</p> <p>●<u>自分が感じたこと考えたこと、やってみたことを入れ、誰が読んでもわかるように気をつけるように</u>していたが、書き方としてどうなのかは、自信が持てないままだった。少し軽い気持ちで自信を持って書けるようになった。(1) 第5回</p> <p>●<u>子どもを観察し、子どもの気持ちや周りの様子を考察する、子どもの記録を書く、子どもの記録をもとにレポートを書くなど、とても力のいることだったが、その大切さを感じることができた。その子の成長を残すということの大切さを知ることができた。</u>(1) 第4回</p>

表5 「今後の自分の課題」：保育者によるレポートからの抜粋

<p>①保育について</p>	<p>○<u>子どもの年齢に応じた遊びの工夫を理解する。子どもの自由度のある保育を考える。</u>(2) 第5回</p> <p>○<u>全体での活動、製作の時の子どもへの興味のひき方、「やってみよう！」と思えるような活動の設定。</u>(3) 第3回、第5回</p> <p>○<u>気になる子の対応など専門性や保護者への発信力を</u>高めていきたい。先輩たちにもっと話を聞かせてもらい、Y園らしさをもっと出していきたい。(4) 第5回</p> <p>●<u>何年経っても、子どもに対して、常に真摯に向き合うことを</u>忘れないようにしたい。(1) 第5回</p> <p>●<u>保育士主体ではなく、子どもたちの思いや言葉に耳をかたむけながら、子どもの気持ちを見抜ける力</u>をつけていきたい。(1) 第4回</p> <p>●<u>もっと丁寧に、声かけや、今、目の前の子どもたちに一番大切なこと(育てたいところ)は何なのかを</u>しっかり考えた関わりをしていきたい。(職員同士の共通認識や連携も含めて)(3) 第3回</p>
<p>②記録について</p>	<p>○<u>子どものうれしい変化、よいところを見つける目を</u>養い書いていきたい。自分の思いも少しずつ書いていけるようにしたい。(0)</p> <p>○<u>頭の中で自分ではわかっているつもりでも、文章にすると気持ちが伝わらないこともあるので、伝え方書き方</u>を勉強したい。(2) 第5回</p> <p>○<u>自分からではなく、人から見て分かりやすいと思える記録を</u>書いていきたい。(3) 第3回、第5回</p> <p>○<u>できるだけ丁寧に具体的に書き、自分の保育や子どものケース記録などに</u>しっかり活かしていきたい。(4) 第5回</p> <p>●<u>おこった出来事を、できるだけ丁寧に書いて来たが、まだまだ不十分だと感じた。こちらの関わり方、声かけ、それによって子どもがどんな表情をしたかなど、丁寧に書きとめていかないといけない</u>といけな。(0) 第5回</p> <p>●<u>エピソードや子どもたちの様子など、できるだけその日のうちに記憶がはっきりしているうちに記録する</u>ようにしたい。(1) 第5回</p> <p>●<u>自分なりに日誌の保育メモを活用してみたい。</u>(1) 第4回</p>

注) 表4・表5について

○：Y園での保育経験が少ない保育者や保育経験自体が少ない保育者 ●：Y園での保育経験が長い保育者 ( )内：担任している子どもの年齢  
 第3回：場面記録をもとに話し合ったクラスの保育者 第4回：子どもの育ち、保育を振り返るレポートをまとめた保育者  
 第5回：記録を提出した保育者

### Ⅲ-6 第6回 園内研修

日時：3月29日（火）9:30～10:30

テーマ：まとめ～話し合いの記録とレポートをもとに～

第5回園内研修の記録レポート、各保育者が提出したレポートからの抜粋を掲載したレジメを配布し、これまでの園内研修の内容について振り返った。また、保育者によっては子どもの興味・関心をとらえ、どのような経験をしているか、どのような経験をしてほしいかと考えることが難しいため、「保育マップ型記録」（河邊, 2015）の考え方も紹介し、子どもの姿から「経験している内容」「必要な経験」、そのための「具体的な援助としての環境の構成」を考えるプロセスについて確認をした。今後の園内研修の方向性を保育者が主体的に考える上で参考になるように、保育の質を高めるための園内研修として大切な点(中島, 2009)についても紹介した。

### Ⅳ まとめと今後の課題

本研究は筆者が参加を始めた年度のY園の園内研修を取り上げ、園の実態や課題に合わせて保育所保育の質を高めるための園内研修にどのように取り組むとよいのか考察することを目的とした。

園の実態や課題について把握し、園内研修の進め方について考えるため、最初は特に時間をかけて園長・主任と話し合いをした。そして、Y園の園長・主任は「発達がゆるやかな子ども」「困り感のある子ども」「はたらきかけにくい保護者」がいる中で、職員同士で共有する記録が不十分な場合があることや、Y園での保育経験が少ない保育者や保育経験自体が少ない保育者への「これまでの保育のありよう」「この園での保育のありよう」の伝え方が課題だととらえていることを確認した(表1参照)。そこで、記録についての園内研修を通して、子どもの育ちや自らの保育を振り返り、保育の中で大切にしたいことについても一緒に考え、共通理解を深めることを意図した。園長・主任が気になっている点(「大人主導にしない」と言いながら、保育者の都合による生活の流れを優先させていないか、複数担任のクラスでは保育者間の共通理解がなされているのか、そのために記録が機能しているのか)についても考慮した(表2参照)。

始めは保育者が日々書いている連絡帳、週案・週の記録を取り上げ、記録を書く上で大切な点について確認し(第1回)、継続的に書く記録である連絡帳をもとに子どもの育ちや自らの保育について振り返る機会もつくった(第2回)。また、学習会で学んだことをいかし、場面記録をもとに課題を抱えたクラスの保育について一緒に考える機会(第3回)もつくった。その後、園内研修の経験が実際の記録にいかされているか確認したこともふまえ、4月からの様々な記録をもとに子どもや保護者について理解する、保育者間で話し合い大切にしたいことについての共通理解をする、子どもの育ちや保育を振り返り今後の課題について考えるというプロセスを学ぶ機会(第4回)をつくった。また、各クラスの保育者が検討したいことを出し合い、記録をもとに話し合いながら、自らの保育について振り返る機会もつくった(第5回)。

これらの園内研修を重ね、年度末に保育者が作成したレポートを読むと、Y園での保育経験が少ない保育者や保育経験自体が少ない保育者も、子どもの育ちや自らの保育を振り返るための記録の大切さや保育者としての今後の課題に気づき、Y園の園長・主任が大切にしたいと思っていることへの理解も深まってきている様子が窺えた。

保育所において園内研修の時間を確保することは難しく、園長・主任との話し合いを重視したのは、限られた時間を有効に使うためでもあった。また、保育者にも事前準備をした上で研修に臨んでもらい、話し合う時間が限られることについては、研修後のレポート作成等によ

て補った。このような工夫をしながら継続的に園内研修に取り組む中で、筆者も一人一人の保育者について理解することができ、その上で記録に目を通すことで、研修の内容や方法を具体的に考える手がかりにもなった。

保育の質を高める園内研修のために重要となる点（中島，2009）をもとに考えると、Y園においても「所長(園長)のリーダーシップ」が発揮され、「外部からの参加者の存在」を入れた「園内研修の体制作り」がなされた。また、「保育者一人ひとりの自己評価につながる」ようになってきている。しかし、「日々の保育実践と循環する」「共通理解が深まる」までになっているとは言えず、「子どもや保育について話しやすい関係作り」「みんなで考えていこうとする保育者集団であること（協働性）」についてもさらに考えていく必要がある。園長が考えている記録の書き方を「よい意味で効率的にしたい」（表1参照）という点についても、具体的な手立てを考えられていない。子どもの興味・関心、経験をとらえるための日々の記録のあり方についても検討していく必要がある。

Y園の園内研修にはその後も継続して参加しているため、上記の点も課題としながら、今後も保育所保育の質を高めるための園内研修についてさらに考えていきたい。

## 注

- 1) 記録には個人情報が含まれるため、管理を徹底することを研修時に毎回再確認した。
- 2) Y園ではA4版用紙の表面に週案（「週のねらい」「環境構成・予想される活動・援助と配慮」等）と日の記録（「実施活動・自己評価」）を書いている。裏面にはその週の保育について振り返り、課題等を明確にするための「週の評価・反省・特記」欄と、一人一人の子ども、エピソード、環境構成等について、自由に書くことができる「保育メモ」欄がある。裏面にまとめたこともふまえて、翌週の週案（表面）を作成できるようにという考えからである。
- 3) 「ある状況（Antecedent）である行動（Behavior）をしたら、ある結果（Consequence）が生じる」と考える応用行動分析理論にもとづいて話をされた。

## 引用文献

厚生労働省 2008 保育所保育指針 第7章 職員の資質向上 1（2）

厚生労働省編 2008 保育所保育指針解説書 フレーベル館 pp.211-212

中島寿子 2009 保育の質を高めるための園内研修について考える～ある保育所の4年間の園内研修をもとに～ 保育の実践と研究 13-4 pp.49-63

河邊貴子 遊びを育てる保育者 青木久子・河邊貴子 2015 遊びのフォークロア 萌文書林 pp.172-179

## 謝辞

本稿執筆についてご快諾いただいたY園の先生方、貴重なご助言をくださった水田和江先生（NPO法人おひさま生活塾）に記して感謝申し上げます。